

来週の市場とレート予想

	10/16(月)	10/17(火)	10/18(水)	10/19(木)	10/20(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 600	ト ン	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000
財政他	△ 18,600	△ 3,000	+ 3,000	△ 11,000	△ 11,000
資金需給	△ 18,000	△ 3,000	+ 2,000	△ 12,000	△ 13,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行・償還(2年)			国債発行(20年) 交付税特会借入・償還	国庫短期証券発行・償還(1Y)
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,300 CP等買入 △ 300 国債補完供給 + 700				被災地支援 △ 200
オペスタート	共通担保(全店) + 1,400 国債買入 + 7,800	CP等買入 + 3,000 短国買入 + 7,500			
(日本)			桜井日銀審議委員、講演・会見(函館市)	貿易統計(9月)	黒田日銀総裁、全国信用組合大会であいさつ
(海外)	米 NY連銀製造業景況指数(10月)	米 鉱工業生産指数(9月) 米 NAHB住宅市場指数(10月) 米 フィラデルフィア連銀総裁、講演 欧 ユーロ圏消費者物価指数(9月)	米 住宅着工件数(9月) 米 ベージュブック 米 NY連銀総裁、 ダラス連銀総裁講演	米 新規失業保険申請件数(14日終了週) 米 フィラデルフィア連銀製造業景況指数(10月) 米 景気先行指標総合指数(9月)	米 中古住宅販売件数(9月) 米 イエレンFRB議長、講演 米 クラウド連銀総裁、講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ △0.025
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.015 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初361兆4,300億円から始まり、11日、12日は短国・国債買入オペを主因に増加した。なお週末には年金定時払いを受けて更に増加し、週初から9兆6,000億円増加の371兆300億円となった。無担保コールON物金利は、積み最終日が近付き、地銀を中心に週を通して調達意欲が旺盛だったことから堅調に推移した。同加重平均金利は上昇基調をたどり、週初の△0.029%から12日と13日(積み最終日)の両日は△0.021%まで上昇し、昨年10月7日以来、約1年ぶりの高水準となった。ターム物は、1W~1M物で△0.040%~△0.020%の出合が見られた。10日、日銀が発表した地域経済報告(さくらレポート)では、全9地域のうち関東甲信越、東海、近畿、中国の4地域の景気判断が前回7月調査から引き上げられた。来週は、黒田日銀総裁の全国信用組合大会でのあいさつ(20日)、海外では、ベージュブック(18日)、イエレンFRB議長の講演(20日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.20 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約3,400億円で、期落ち額約3800億円(金融機関・ABC除外)を下回った。復活発行の案件も少なく、少額の発行案件が中心で、発行額は伸び悩みとなった。発行レートは、投資家の購入ニーズが引き続き強く、横這いの0%近辺での出会いとなった。現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は3,100億円程度となっている。

<TDB>

12日に行われた国庫短期証券3M第714回債の入札は、最高落札レート△0.1768%(前回債△0.1617%)、平均落札レート△0.1865%(同△0.1685%)と前回債からレートがやや低下した。セカンダリー市場では3M物が△0.185%程度の気配、6Mが△0.175%で出合が見られた。来週は19日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.095%近辺から始まったが、レートは低下基調。週央にかけては△0.10%台前半の取引も一部見られた。TDB3Mの発行日である16日受渡しは一時△0.09%台まで上昇したが、国庫短期証券買入れオペがオファーされた週末には△0.11%近辺まで再度低下し越週した。SC取引では週を通して10年348回債、5年133回債のbidが多く、10年348回債は週を通して概ね△0.10%台前半~半ばの出会い。5年133回債は10日の国債買入れオペ後△0.20%台半ば~後半で取引され、以降は△0.10%台後半~△0.20%台半ばで推移した。その他の銘柄では、2年377・378・380・381回債、5年130・131・132・133回債、10年336・340・341・342・343・346・347・348回債、20年161・162回債、30年55・56回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。